

「議員連盟結成」に続くビッグニュース 「国際展示場、拡張競う」と報道 しかし、この規模では 全く足りない！

リード社長であり、展示会産業における日本最大の団体「一般社団法人 日本展示会協会」会長を務める石積は、この5年間、粘り強く次のように訴えてきた。「資源の無い日本が世界経済の中で生き残るためには、世界中から人、物、情報がどこよりも多く集まる国にならなければならない。そのための最大の戦略は、日本を展示会立国にすることだ」と。

それを実現するために、彼は100回を超える講演を行い、2,000名に上る政治、行政、産業界のリーダーに会い、「展示会立国になるには、大規模な展示会場を一刻も早く建設することが必要だ」と声を大にして訴えてきた。



一般社団法人 日本展示会協会
会長 石積 忠夫

前号のニュースリリースでも報じた通り、1月9日(木)に開催された日本展示会協会の新年会の場でも、石積は集まった11名の国会議員をはじめとする619名の参加者に「日本の深刻な問題は、世界各国と比べ、展示会場が圧倒的に少なく、規模が小さいことだ。その結果、日本経済に多大な機会損失をもたらしている」と訴えた。

その主張を聞いた総理補佐官 木村太郎衆議院議員は、「展示会産業の育成」と「会場建設の推進」を目的とした議員連盟結成を決意し、早速行動に移った。そして、すでに30名の国会議員が集結する状況になっている。

その動きに連動するかのよう、わずか一週間後の平成26年1月15日(水)夕刻、日本の展示会産業の人々を驚かせ、感激させた出来事があった。日本経済新聞夕刊の1面に、「国際展示場 拡張競う」という記事が載ったのだ(左参照)。

これに対して石積は、「我が国を代表する経済紙である日本経済新聞の1面に、展示会関連の記事が掲載



展示会場の拡張をトップで報じた1月15日付け日経新聞。
(画像クリックで、同社サイトにリンクし、記事閲覧可能)

されたこと自体が画期的であり、大きな前進だ。しかも、日本経済の活性化を妨げている大きな原因の一つ『展示会場の不足』に焦点を当てて書かれているという点で、今までにない的確を射た記事だと思う。極めて重要な問題を取り上げてくれた慧眼^{けいがん}に、敬意を表する」と、率直に喜びを表した。

さらに、石積は今回の記事の内容に関して、「紙面が限られているので仕方ないと思うが、これだけの説明では読者に十分理解していただけただろうか心配である。極めて重要な問題なので、日本展示会協会 会長として私からも一歩掘り下げて、説明させていただきたい。」と以下のように述べた。

① 日本の機会損失は深刻だ

現在の3倍に拡張しても、予約で即刻埋まる！

今回の日経新聞の記事に、次のような記述がある。

東京ビッグサイトはほぼフル稼働が続いており、出展希望を断る例もあるという。パシフィコ横浜も年間3千件の（会場使用申込みの）問い合わせに対し、800件程度しか応じられない

これは日本が文字通り、慢性的な会場不足であることを物語っている。それはすなわち、**多くの機会損失を招いているということに他ならない。**

会場不足のために、巨大な経済効果、雇用創出、産業活性化、訪日外国人の増加……等、展示会がもたらす様々なメリットを、みすみす取り逃がしている。すなわち、「巨大な機会損失」を引き起こしているのが、日本の現状なのだ。

世界中の展示会場は、道路や空港、港と同じく、外部からの人、物、情報を集め、経済を活性化させるための「基本インフラ」と捉えられている。インフラの使命の一つは、「いつでも誰でも自由に使えること」だ。したがって例えば、慢性的に渋滞する道路があれば、バイパス道路を通すなどして、車の往来をスムーズにしなければならぬ。これと同様に、世界の展示会場は、「新しい展示会を誰でも、いつでも立ち上げられるようにする」ために、いつも余分な面積を確保している。たとえ1本の展示会でも、それがもたらすメリットが巨大だと深く認識しているからだ。これが、世界中の常識であり、鉄則なのだ。

ところが日本の展示会場は、会場単体での収益にこだわるあまり、「稼働率を高め、空きスペースを出さないこと」を過剰に重視してきた。つまり、簡単に新しい展示会が立ち上げられないようになっているのだ。これでは世界からの遅れはますます大きくなるだけだ。

世界の展示会場で、稼働率の高さを誇っているところはほとんどない。それどころか、フル稼働になれば、「機会損失を招いている」として、政治および市民から責任を追求されると聞いている。

私は、ビッグサイト（展示面積8万㎡）が今すぐ、世界標準の20万㎡に拡張しても、即刻、予約でいっぱいになると確信している。現に、リードだけでも、現在、予約が取れなくて立ち上げられない展示会と、スペースが足りなくて拡大できない展示会を合わせると、50本以上になる。日本全体では500～1,000本の潜在需要があるはずだ。

したがって、日本の展示会場の総面積を3倍に拡大しても、すぐ埋まることは確実だと信じている。（なお、展示会場の稼働率についてもっと深く知りたい方は、ニュースリリース No.64 の9～10ページに詳細に説明してあるので、そちらをご参照ください。過去のニュースリリースは弊社ホームページ <http://www.reedexpo.co.jp> にて閲覧可能です）

②

現在の拡張計画では 全く足りない

一刻も早く、世界標準の20万㎡の会場を！

また、記事のサブ見出しに、**東京ビッグサイト 2 割 (拡張)、パシフィコ横浜 5 割 (拡張)** という記載がある。もちろん、第一歩を踏み出したという点では大歓迎すべきだが、一方、「これで十分だ」と思う読者が多いのではないかと心配せざるを得ない。

下の表は、展示会場面積 世界ランキング (展示面積 5 万㎡以上) である。

日本最大の東京ビッグサイトの展示可能面積は 8 万㎡だが、世界では 70 番目にしかすぎない。そのビッグサイトが 2 割増の 9 万 6 千㎡になったとしても、残念ながら世界の 61 番目になるだけである。また、パシフィコ横浜が 5 割増の 3 万㎡になっても、世界の 200 位にも入らないだろう。

一方、欧米の各都市は言うまでもなく、中国、韓国をはじめとするアジア中の都市も、大規模展示会場を次々と建設し、増設を繰り返している。

その結果、今や展示会場面積の世界標準は 20 万㎡となっている。その中において、世界第 3 位という経済規模を持つ日本の展示会場は、あまりにも少なく、あまりにも小さい。したがって、現在の拡張計画では全く足りないことは、明明白白である。一刻も早く世界標準である 20 万㎡の会場を造るべきだと考える。

展示会場面積 世界ランキング (数字の単位は万㎡。黄色はアジアの都市)

日本最大の 東京ビッグサイトでも 70 番目

1. ハノーバー (独) 46.6	32. テヘラン (イラン) 12.0	69. 上海 (中) 8.1	103. バドヴァ (伊) 6.1
2. フランクフルト (独) 35.6	32. パリ (伊) 12.0	70. 東京ビッグサイト (日) 8.0	104. ウェルス (オーストリア) 6.0
3. ミラノ (伊) 34.5	37. ローマ (伊) 11.9	70. ヒューストン (米) 8.0	104. 杭州 (中) 6.0
4. 広州 (中) 33.8	38. バルセロナ (西) 11.5	70. 大連 (中) 8.0	104. 北京 (中) 6.0
5. ケルン (独) 28.4	39. ブリュッセル (ベルギー) 11.4	70. 南京 (中) 8.0	104. ドルトムント (独) 6.0
6. デュッセルドルフ (独) 26.3	39. リヨン (仏) 11.4	70. ダマスカス (シリア) 8.0	104. トロント (カナダ) 6.0
7. パリ (仏) 24.3	41. ライプツィヒ (独) 11.1	70. パリ (仏) 8.0	109. ヘルシンキ (フィンランド) 5.8
8. シカゴ (米) 24.2	42. 成都 (中) 11.0	76. クリーブランド (米) 7.9	109. デトロイト (米) 5.8
9. バルセロナ (西) 24.0	42. エッセン (独) 11.0	76. 広州 (中) 7.9	111. 寧波 (中) 5.7
10. バレンシア (西) 23.1	42. ヘアニング (デンマーク) 11.0	78. アナハイム (米) 7.8	111. サンディエゴ (米) 5.7
11. パリ (仏) 22.7	45. シンガポール 10.9	78. ニューヨーク (米) 7.8	111. フェニックス (米) 5.7
12. モスクワ (ロシア) 22.6	45. リミニ (伊) 10.9	78. パッドザルトツフレン (独) 7.8	114. ウィーン (オーストリア) 5.5
13. 重慶 (中) 20.4	47. ソウル (韓) 10.8	81. サンパウロ (ブラジル) 7.6	114. トリノ (伊) 5.5
14. バーミンガム (英) 20.2	47. ビルバオ (西) 10.8	81. サンパウロ (ブラジル) 7.6	114. 成都 (中) 5.5
15. 上海 (中) 20.0	47. ポズナン (ポーランド) 10.8	83. マカオ (中) 7.5	114. 武漢 (中) 5.5
15. マドリッド (西) 20.0	50. 北京 (中) 10.7	84. ローズモント (米) 7.3	118. デンバー (米) 5.4
15. ボローニャ (伊) 20.0	51. 瀋陽 (中) 10.5	85. 暮張メッセ (日) 7.2	118. ゲント (ベルギー) 5.4
18. オランダ (米) 19.1	51. シュトゥットガルト (独) 10.5	85. アムステルダム (蘭) 7.2	118. 濟南 (中) 5.4
19. ラスベガス (米) 18.4	51. 深セン (中) 10.5	87. ロサンゼルス (米) 7.1	118. ハリスバーグ (米) 5.4
20. ミュンヘン (独) 18.0	51. モスクワ (ロシア) 10.5	88. インテックス大阪 (日) 7.0	122. 杭州 (中) 5.2
20. ザグレブ (クロアチア) 18.0	55. ジュネーブ (スイス) 10.2	89. 蘇州 (中) 6.9	122. 昆明 (中) 5.2
22. ニュルンベルグ (独) 16.0	55. ニューオーリンズ (米) 10.2	90. 広州 (中) 6.8	122. カールスルーエ (独) 5.2
23. ベルリン (独) 15.5	57. ロンドン (英) 10.0	91. ダラス (米) 6.7	122. インディアナポリス (米) 5.2
24. 武漢 (中) 15.0	57. コトレヒト (蘭) 10.0	91. 鄭州 (中) 6.7	126. ローザヌス (スイス) 5.1
25. ベローナ (伊) 14.3	57. バルマ (伊) 10.0	93. 香港 (中) 6.6	127. トロント (カナダ) 5.0
26. バーゼル (スイス) 14.1	60. イスタンブール (トルコ) 9.8	93. ロンドン (英) 6.6	127. サンフランシスコ (米) 5.0
27. バンコク (タイ) 14.0	61. ラスベガス (米) 9.6	93. ヒューストン (米) 6.6	127. 昆明 (中) 5.0
28. モスクワ (ロシア) 13.3	61. 東莞 (中) 9.6	96. ワシントン (米) 6.5	127. 青島 (中) 5.0
29. アトランタ (米) 13.0	63. ハンブルグ (独) 8.6	97. ハリスコ州 (メキシコ) 6.4	127. 長沙 (中) 5.0
30. コペンハーゲン (デンマーク) 12.2	63. フリードリッヒスハーフェン (独) 8.6	97. コロンバス (米) 6.4	127. 長春 (中) 5.0
31. プール (チェコ) 12.1	65. ボルドー (仏) 8.4	97. インディアナポリス (米) 6.4	127. 南昌 (中) 5.0
32. ヒューストン (米) 12.0	66. 香港 (中) 8.3	100. ストックホルム (スウェーデン) 6.3	
32. 義烏 (中) 12.0	67. リオ・デ・ジャネイロ (ブラジル) 8.2	100. フィラデルフィア (米) 6.3	
32. 青島 (中) 12.0	67. ドバイ (UAE) 8.2	100. ニューデリー (印) 6.3	

資料提供: 日本展示会協会 (2013年現在)

世界の展示会場の展示可能面積のランキング。日本最大の東京ビッグサイトの順位は2012年時点では世界68位だったが、2013年には70位までさらに下がってしまった。日本も今すぐ、展示会場の拡張に力を入れなければならない。

③ オリンピックを待つことなく、 日本にとって、今すぐの増設、新設が必要！

さらに、今回の記事の中にある、五輪関連需要狙う というサブ見出しも、読者に「五輪が決定したので、初めて展示会場使用のニーズが生まれ、その結果、展示会場の拡張が行われる」と思わせるのではないかと憂慮している。

たしかに 2020 年の東京オリンピック決定は、日本経済および日本にとっての朗報である。また、展示会場拡張の機運を盛り上げることに大きく貢献してくれたという点でも大きな意義がある。

しかしながら、**そもそも、日本の展示会場の面積は、すでに現在、深刻なほど不足しているのである。**したがって、政府や東京都には、オリンピックを待つことなく、増設・新設していただくよう強くお願いしたい。さらに強調したいことは、質素で安価な展示会場でいいから、一刻も早く、例えば 2 年、3 年のうちに完成させてほしいという事である。さもなくば、世界各国との遅れはますます大きくなる。

石原都知事（当時）も、2020 年オリンピックの東京開催が決まる以前の 2012 年 3 月、都議会にて、「東京ビッグサイトは外国に比べてかなり見劣りがする。オリンピック云々に関わらず、左右にある土地はフルに活用して、できる限りの拡大をできるだけ早くやりたい」とはっきりと答弁している（ニュースリリース No.84 参照）。

④ 足りないのは、「展示会を開催する為の」会場 国際会議と混同するのを やめよう

展示会についての記事やテレビニュースは、ここ数年急激に増加しており、展示会の重要性を訴える者として非常に喜ばしいことだと感じている。しかし、「展示会」と「国際会議」を、同じものとして表しているケースも多い。今回の記事でも、「国際展示場 拡張競う」という見出しの下で、同時に、国際会議場のことや国際会議の開催件数などが記述されているが、このことにより、読者の中には「展示会」と「国際会議」が同じようなものだと思った方も多いのではないかと心配している。

だからあえて明確にしておきたい。「展示会」と「国際会議」は別のものである、と。

一般的に国際会議は、数十人から数百人規模、大きくても数千人規模であり、展示会に比べてその規模ははるかに小さい。そのため、ホテルやコンサートホール、専門会議室、学校の講堂など、既存の会場でも開催できる場合が多い。

一方、展示会は何千社もの競合他社が出展し、そこに何万人ものバイヤーが来場することが特徴だ。すなわち、業界全体が一堂に集まるための、巨大な「展示面積」が必要不可欠となる。

この違いを明確に認識せず、国際会議と展示会を一緒くたに議論してしまうと、大きな混乱が生ずる。

例えば、主に国際会議だけをイメージしている人にとっては、10 万㎡、20 万㎡の大規模展示会場の必要性は感じられなくなりがちだ。したがって、その人が参加している議論の総意としては、「建設に消極的」になることが多い。また、仮に、建設を推進しようという総意に至っても、拡張は小規模なものになりがちである。日本では、この混同が他の国よりも多く、それが結果的に展示会場の建設を遅らせてきた一因となっているように思われる。

あまりに大きい 世界との差

しかし、世界に追いつくチャンス到来！

最後に、右の図は各国の展示会場の展示面積を合計した比較グラフである。日本はビッグサイトの8万㎡、幕張メッセの7.2万㎡をはじめ、全国の展示会場を合計しても35万㎡に留まっている。これは中国の465万㎡に比べ13分の1にすぎない。さらに671万㎡を誇るアメリカの19分の1、日本とほぼ同じ国土面積のドイツでも、日本の10倍の展示面積を有している。



日本の経済規模および特にアジア隣国との競争

「展示会場の総面積が大きい国ほど、展示会に力を入れている国だ。『展示会立国』への第一歩は、展示会場の新設・増設である」と石積は語っている。

を考えたとき、私は今すぐ日本の展示会場 総面積を3倍の100万㎡に拡大すべきだと確信している。

関係者のなかには、**ビッグサイトの2割増もパシフィコ横浜の5割増も、最終決定ではなく、それ以上の増設も可能**だと考えている人もいるようである。もし、現在の会場のそばに土地の確保ができず、拡張が難しい場合には、**別の場所に 第2ビッグサイトや第2パシフィコを建設することも可能**だと考えている人もいるようである。

いずれにしても、今、展示会場の拡張が決まったことは、会場不足によって巨大な機会損失を招いている日本経済および日本国にとってのビッグニュースである。そして、これが世界に追いつく絶好のチャンスとなる。

したがって、展示会産業に関わる人々と政治・行政・産業界の方々ががっちりとして協力して、一刻も早く拡張を実現しなければならないと考える。私もそのために全力投球をする決意である。

ご意見、ご感想を 下記までお寄せください

Email: pr@reedexpo.co.jp

FAX: 03-3349-8525

お問い合わせ: リード エグジビション ジャパン(株) 広報部 部長 田中 嘉一 TEL: 03-3349-8501